

市立病院 だより

市立病院のがんセンターとは どんなところですか

副院長 兼 腫瘍内科・呼吸器内科主任部長 かたかみのぶゆき 片上 信之



Q.1 がんセンターではどんな治療が行われていますか

がんセンターは抗がん薬を使用して治療する「化学療法センター」、がん細胞を

神戸大学卒業後、神戸市立医療センター中央市民病院で研修医、呼吸器内科医師として勤務。平成元(1989)年ハーバード大学附属マサチューセッツ総合病院に腫瘍学の臨床および研究フェローとして1年半留学。帰国後、同市民病院呼吸器内科を経て旧先端医療センター総合腫瘍科部長、同市民病院がんセンター長を歴任。平成31(2019)年1月から現職。
がん薬物療法専門医、呼吸器病専門医、総合内科専門医、気管支鏡専門医。

放射線で治療する「放射線治療センター」、患者さんの生活やがん治療をサポートする「がん診療支援センター」の3つで構成されています。

化学療法センター

あらゆる種類のがんを対象に、従来の化学療法と急速に進歩している免疫療法を行っており、毎月300人超のがん患者を外来で治療しています。がん薬物療法専門医とがん看護専門看護師、化学療法認定看護師、がん薬物療法専門薬剤師が常勤し、治療が安全・有効に行えるようにしています。

放射線治療センター

高精度の最新鋭放射線治療装置を用いて、一般の放射線治療や、肺がん、肝臓がん、膵臓がんなど呼吸と共に動く腫瘍を追いかけながらピンポイントに放射線照射を行う追尾照射、骨への転移などによるがんの痛みを和らげるための緩和照射、脳転移に対するピンポイント照射(エクスナイフ)を行っています。

がん診療支援センター

専属の看護師と薬剤師、管理栄養士がおり、看護師は生活面でのさまざまな相談や支援、薬剤師は抗がん薬の副作用の説明、管理栄養士は外来・入院での栄養面の支援を行っています。がん患者さんが集うサロンも開催しています。

Q.2 がん免疫療法とはどのような治療ですか

従来、がん治療の3本柱は手術、放射線、抗がん薬でしたが、平成26(2014)年7月から第4の柱として、新たに免疫療法が加わりました。免疫療法では、患者自身のTリンパ球という細胞を元気にしてがん細胞を直接攻撃させます。皮膚がんである悪性黒色腫、肺がん、食道がん、胃がん、肝臓がん、乳がん、リンパ腫などの治療にも有効とされており、がんが消失し、治療する患者さんもいます。一方、リンパ球が元気になりすぎて自分自身の正常な細胞を攻撃する特異な副作用もありますので、専門医と看護師、薬剤師が事前にしつかりとご説明します。

Q.3 最後に一言お願いします

男女とも平均寿命が延びた結果、がん患者さんも高齢化してきました。高齢者にも優しい抗がん薬と、放射線治療の開発が年々進んでいます。当院では多くのがん専門医や、がん患者さんの看護に秀でた看護師、抗がん薬に詳しい薬剤師、適切な食事療法を提供できる管理栄養士などが治療に当たります。かかりつけ医にご相談の上、どうぞ心配なく受診してください。